



小坪小だより

7月号

横浜市立小坪小学校 校長 高田 桂太郎

横浜市港南区港南台4-11-1 電話 832-0617

思いを伝える

校長 高田 桂太郎

6月17日、私は、港南公会堂で行われた「横浜平和スピーチコンテスト港南区大会」を参観してきました。これは、港南区各小学校の代表が一同に集まり、平和について自分の考えを発表するという、横浜市では伝統的な教育活動です。本校からも6年生の高橋 晴さんが代表として参加し、大変立派なスピーチを発表しました。その内容は、ウクライナで起きている戦争を目の当たりにしたのをきっかけに、自分の普通の友達とのかかわり方を見つめなおし、どうしたら友達同士理解し合えるのか、さらに、国同士が理解しあうにはどうしたらよいのかということを実際に考え、訴えたものでした。私は、事前にそのスピーチ原稿に目を通していたので、内容は理解しているつもりでした。しかし、実際の発表会場でスピーチとして聞いてみると、その説得力は格段にレベルアップしていて大変素晴らしいものでした。また、それは、どの発表者も同様で、自分の声で自分の思いを伝えることの大切さを改めて実感し、同時に、子どもたちの大いなる可能性に感動を禁じ得ませんでした。

スピーチ会場での指導講評でも話したのですが、私は6年生の時に「将来は国連事務総長になる。」という夢を持っていました。当時は、東南アジアで内戦が続き、ぶるぶる震えている子どもの姿をテレビで見たのがきっかけでした。実際のところ、私は教職の道を選ぶのですが、学級担任のころは、常になかよしのクラスをつくりたいという思いを持っていました。今は、みんなが、なかよしの学校をつくりたいという思いをもっています。その思いの原点は、6年生の時にあったように思えます。

だから、港南区の子どもたちのスピーチを聞いたとき、当時の自分の仲間に出会ったような気がして、うれしくて仕方ありませんでした。「世の中を少しでもよくしたい。自分のできることをまずはやっつけていこう。」そんな子どもたちの純粋な思いを、しっかり守り、支えていこうという決意を新たにしてくれる日になりました。

さて今年は、例年にない速さで梅雨が明けました。本来なら夏到来と気持ちが高まってくるところですが、連日猛暑が続いていて、子どもたちの中には、少々疲れている様子の子も見られます。学校では外での学習活動を室内で行えるようにしたり、水分補給の休憩をこまめに入れたりして学習活動を進めています。保護者や地域の皆様にも、子どもたちの安全・安心な学校生活のために、毎日の健康観察や登下校の見守りなどをしていただき、本当に感謝しております。今後とも、子どもたちの健康を第一に考えて学習活動を進めてまいりますので、ご理解とご協力のほど、よろしく願いいたします。